

建設 防災 ボランティアニュース 第 31 号

平成 20 年度建設局初動対応訓練の実施

災害発生時における職員の対応能力の向上を図るため、建設局初動対応訓練が、1月 28 日(水)午前 7 時 30 分から 12 時まで実施されました。今回の訓練のポイントは、

- イ) 職員の参集状況を把握するため、一定時間ごとに参集状況を集約し、事務所間で参集状況にどれだけのばらつきが生じるか確認する、
- ロ) 災害発生後から訓練時間終了まで継続的な訓練計画とする、
- ハ) 別途実施してきた「職員参集訓練」を初動対応訓練の中に組み込むなどです。

訓練は、東京湾北部を震源とする大規模地震(マグニチュード 7.3、震度 6 弱以上)が発生し、都内で広域的な被害が発生しているとの想定に基づき、職員参集訓練、本部立上げ訓練、情報連絡訓練、点検出動訓練が行われました。

事務所別初動対応訓練参加者

事務所名	会員数	参加者
第一建設事務所	11	4
第二建設事務所	12	8
第三建設事務所	10	5
第四建設事務所	11	6
第五建設事務所	14	8
第六建設事務所	16	5
西多摩建設事務所	9	3
南多摩東部建設事務所	13	8
南多摩西部建設事務所	10	4
北多摩南部建設事務所	9	2
北多摩北部建設事務所	9	8
東部公園緑地事務所	6	4
西部公園緑地事務所	6	4
計	136	69

当協会からは、69 名と例年以上に多くの会員の方々に、訓練参加をいただきました。

訓練当日は、あいにく非常に寒い日でしたが、幸い事故もなく、訓練は無事終了しました。今回の訓練では前年度と異なり、ボランティア会員は職員参集訓練には参加せず、点検出動訓練のみに参加することになっておりましたが、事務所との調整の結果、参集訓練にも参加された班がありました。連絡が不徹底で申し訳ありませんでした。

お忙しい中、多数の会員の方々にご協力いただき、予定通り訓練を終了することができましたことに感謝申し上げます。

なお、次年度以降の訓練をより充実させるため、今回の訓練における問題点や改善を図るべき点等について、皆様からご意見を頂けたら幸いです。

担当理事 本間 弘

参加報告(四建)

1月 28 日(水)、四建では 20 年度初動対応訓練が、41 名の職員と私達防災ボランティア会員 6 名(黒淵、久保田、戸張、丸山、三原、宮崎)が点検出動要員として参加しました。その訓練状況を報告します。



[四建事務所本部の参加ボランティア会員]

訓練は、今回、フェーズを、と分けずに職員参集、情報連絡、点検出動、支援が継続的に行わ

れました。このため、防災テレビ会議は行なわれませんでした。他にもいくつか変更があり 参集訓練は、10km 圏居住職員も加える、 対策本部長は本部立上げ時の参集職員が務める、 訓練の実態把握と検証のため、四建ではビデオ撮影を行うなどでした。状況設定の変更は、訓練にいろいろと変化が出て良いことだと思いました。

さて、職員参集訓練は7時30分に開始、7時55分に対策本部を設置と迅速です。

9時に情報連絡訓練開始。被害想定が付与される。被害は、都道のJRと交差する橋梁に変状が発生、都道の交差点で街路灯、街路樹が倒壊、河川の護岸崩壊、の3箇所。

8時30分から会場に待機していた私達は2名ずつ3班に分かれ、現場点検担当に加わり、9時20分に徒歩で出勤。私の班は、橋梁部の点検を担当。あいにくの曇り空で気温が低いいためか、無意識に早足になり、20分で現場に到着。被害発生時には、こんなスムーズに歩けないな、と思う。

到着後、直ちに無線で被害状況を報告。10分後に第二報。他の交信との合間をぬいながらの交信。他の交信で苦労している様も聞こえる。

さらに10分後、応急復旧の進行状況と完了見込みを報告して現場から引き上げ。

10時20分に事務所に帰庁し、情報連絡担当へ最終報告。他の2班も同じ頃に帰庁して、現場点検は終了しました。

この後、被害状況の集計と報告、支援班による非常用食料の炊出しが行われ、本部長、検証者による総括、平野四建所長の講評があり、11時50分頃、訓練全体が特にトラブルなく終了しました。

私は点検出勤要員として2回目の参加でした。現場からの情報連絡は無線機が頼みです。でも、無線機はどうしても電波の混信や遮断が伴い、不安定です。他の通信手段と多重化出来ないかと思うのですが、どれもメリット、デメリットがあるようです。これっ、という確実性の高い通信手段はないものかといつも思います。 四建班 黒淵 弘二

参加報告(北南建)

平成21年1月28日に防災ボランティア会員として初めて、北多摩南部建設事務所の参集訓練及び道路点検に参加した。

今回は徒歩での参集訓練ではなかったので、朝7時30分に家を出て、余裕をもって8時25分に北多摩南部建設事務所の災害対策本部へ到着した。

そこで点呼と初動対応訓練本部の立ち上げに立

ち会い、応急対策班に編入された。防災ボランティアの会員は、私と三沢さんの2人であった。

都の職員の時、毎年のように訓練の中核として参画していたが、今回はOBでの参加ということで異質の強いものを感じた。



[北南建事務所本部]

現場点検は、自転車現場(鎌倉街道本宿トンネル)へ急行するという設定。9時10分、南西建の安部係長を隊長として、私と南東建の近藤さんの3名で編成する銀輪部隊は、本部を出発し都道と市道を経由して現地へ向かった。

訓練ということで、一般車両などが多くなく、交通の少ない区間や歩道のある区間を経由して現場に到着した。

現地での点検の感想としては、本部へ無線連絡の際に、トンネルの中では無線が聞き取りにくいこと、また、外に出て無線が聞きやすいところでは、トンネルから離れてしまうこともあって無線に頼ることの限界も感じた。

約1時間20分ほどで本部と現場を往復し帰庁、結果を報告して点検訓練を終了した。寒い時の訓練のため防寒着と手袋が必需品であると痛感した。

訓練を終わって感じたことは、毎年思っていたことだが、有線での連絡などが難しい情勢下であるので臨場感があるものの、本部の設置できる体制に事務所ができていないことから、現実には被災が生じたときは、電気などの供給が困難となるので自家発電による訓練も実施すべきではないかということ。

また、水防用防災無線についても、自家発電用の電源での対応ができるのであるから、この時こそ訓練しておく必要はないだろうか。

さらには、都道管理図面や住宅地図を見て作戦本部が対応できる体制を組むことも訓練しておく必要はないかと思われた。

今回の訓練は、事故もなく成功裏に終わったので満足なものであったが、冬の訓練のため“寒い”と言

実感の強い中で、所長の挨拶で終了した。
北南建班 新川 彰

施設見学会

平成20年度の施設見学会は、2月20日(金)に40名の会員の参加のもと多摩川河口に建設中の東京国際空港D滑走路建設工事を対象に開催いたしました。

幅約500m、延長約3kmという広大な現場であり、陸上からはその全貌がわかりにくいいため、現地での見学を実現したいと計画し、工事を施工する15社から構成される建設企業体(JV)をお願いしたところ、快くご了承を頂きました。

交通手段は、中央防波堤外側のJV事務所に至る道路事情からマイクロバス2台を使用し、さらに栈橋から2隻の船で現場まで往復するものです。

当日は、朝からの雨、さらに波浪注意報による現場作業が中止される気象状況でありましたが、現地に着く頃には、全く問題ない状況になり、約40分の事業概要説明、約1時間20分の現地説明と予定通りの見学会を実施できました。



[事務所での事業概要説明]

これも、お忙しい中、現地での丁寧なご説明を頂いたJVの阿部部長さんをはじめとする社員の方々のご協力の賜物と、改めて感謝申し上げます。

なお、船の定員から、参加者の募集は40名としましたが、当初希望者が53名、その後のキャンセルを受け、結果的に3名の方の参加をお断りせざるを得ませんでした。大変申し訳なく思っています。

また、17時から、新橋で26名参加の懇親会を開催し、大いに懇親を深め、19時に今回の見学会の日程を無事終了できました。ご苦労様でした。

担当理事 小山幸也、堀中 逸

見学会報告

心配された前夜からの風雨も尻上がりに回復し、集合地の豊洲駅前広場に集まる午後1時頃には雨もやみ、幸先のよいスタートとなった。40名の参加者はマイクロバス2台に乗り、工事概要の説明を受けるべく、ゼネコン6社、マリコン6社、製造メーカー3社の組合せからなる8つの工区のうち、埋立部分と栈橋部分との接合部を担当するJVの現場事務所へ向かった。



[施工中の栈橋部と連絡橋]



[栈橋部からの埋立部中締め切り]



[船上からの栈橋部]

羽田空港再拡張事業の一環であるD滑走路建設

工事は、最大級のエアバスA380に対応しうる滑走距離2,500m、幅60mの滑走路を、埋立部と栈橋部を継ぐハイブリッド工法で本年8月末の完成に向けて進められている。

工事の特徴としては次のような点が挙げられる。

- ・既設空港を拡張するため、高度制限や夜間滑走路の閉鎖時間をフル活用するなどの条件
- ・D滑走路の位置が一部、多摩川の河口部となるため、流れを阻害しないグリッド状の栈橋方式をこの部分に採用
- ・通常7~8年をかけるこの種の工事の工期を短縮するため、埋立て部の沈下を早め、地盤改良の上、良質土で埋立て(平成16年度末現場着手)
- ・接合部の工夫として壁体をやめ、消波性の高いグリッド状とし、伸縮装置は固定部に他端部が滑り込むイタリア製のものを採用
- ・栈橋部は流れを妨げぬよう杭の本数を少なくし、この上に床版を乗せていくため、杭打ちの精度を高める必要、また、床版を支えるジャケットの底部はチタンでカバーし、中に除湿装置を置くなどの工夫

40分ほどの説明の後、現場への人員輸送用の交通船2隻に分乗、8km、30分ほどの移動後、接合部の工事箇所からの見学となった。海上は、見学会を企画した役員や当日対応してくれた説明者の方々の労苦に報いるかのように、べた凧といってよい静かさにも恵まれ、限られた時間ではあったが、貴重な経験ができた見学会であった。準備をされた役員の方及び協力くださった建設JVの方にお礼申し上げます。 西部公園班 湯本 勝

平成20年度防災講習会

本年度の防災講習会は、「最近の地震と構造物」をテーマに建設局土木技術センターの協力を得て講演会を実施いたしました。当日は、多数の会員の方が参加され、活発な質疑応答もあり、震災への関心の高さが示されました。土木技術センターには川合所長以下多くの職員の方々ご協力をいただき、感謝申し上げます。 担当理事 小山、加藤

講習会報告

平成21年3月4日、都土木技術センターのご協力を頂いて、防災講習会を開催しました。会場は都道路整備保全公社26F会議室、時間は午後2時から3時半、出席人数は60名でした。

挨拶に立った所長の川合さんからは、土木研究

所から土木技術センターへの組織変更の経緯、今年の4月から新たに「土木技術支援・人材育成センター」として恒常的な組織として設置し組織強化を図ることになることが話されました。

次に、技術支援課長の荒井さんからは、現在のセンター事業の実績として、目黒線地下水対策や環境対策型舗装等の調査・開発の説明がありました。

また、平成21年度から人材育成を図るための技術研修についても説明があり、センターでは局の技術研修をすべて担当することになっているという話がありました。

講演では、工学博士である技術支援課の小川さんから、「宮城・岩手県内陸地震について」というテーマで、パワーポイントを使用して分かりやすく説明がありました。

1,000ガルを超える地震動がなぜ構造物を破壊しなかったのか？という疑問に答える形で、地震被害の特徴、荒砥沢ダム概要と被害、近年の地震動応答スペクトルといった項目で順々に説明され、最後にまとめとして、今回の地震動は最大加速度が極めて高く、揺れの周期は短周期であったために構造物が破壊されなかったと結論づけられました。



【講演中の小川工学博士】

地震動応答スペクトルなど学理的でかなり専門的な内容を、平易な言葉で噛み砕いて説明されましたので、出席者の方々には十分にご理解を頂いたと思っています。 六建班 藤田 進

南東建との意見交換会の開催

～技術の継承を目指して～

東京都で長年にわたり都市基盤施設の整備や管理に関わった防災ボランティア会員の技術(又は事務)の知識やノウハウを、現役の皆さんに継承していくと、昨年南東建と新しい試みを始めました。

これは、この数年で東京都の行政を担ってきた「団塊の世代」の大量退職により、行政事務のノウハウ

ウが途切れてしまうことを危惧し、平成19年11月に「南東建」と「当協会南東建班」との間で七か条からなる「覚書」を結んだものである。

この覚書により道路や河川の整備並びに土木技術に関して、講演や技術資料の情報提供、定期的な意見交換を行い、現役職員の技術力を高め、もって都市基盤施設整備の円滑な推進を図っていこうとするものである。



「四方所長の挨拶」



「大坪会員の講演」

今回は平成 21 年2月13日に南東建の会議室で、防災ボランティア協会員 11 名が出席し、「なぜ、街づくり、都市基盤整備が必要か～若手職員の皆様に伝えたいこと～」という演題を、今年からメンバーに加わった大坪安則さんが講師として1時間半に及ぶ講演を熱弁しました。

大坪さんは昨年第一区画整理事務所長(都市整備局)を最後に退職しましたが、それまで建設局では道路建設部や河川部を始め各建設事務所を経験し、都市整備局では面整備や水資源の分野に従事したこと。環境局ではアセスに係わり、その色々な経歴の中で直面した課題やその取り組みを中心に話をしました。



「南東建参加職員」

街づくりや都市基盤整備の目的の一つである安全性の中では、「土砂災害」を中心に「土砂災害防止法」が、いよいよ東京都でも危険なエリアを決めて施行されること、そのなかで河川法の許可とするのか宅地造成規制法の許可なのか、行政の縄張り争いが生じ窓口の一本化で苦労した話などがありました。

また、都市基盤施設の管理の面で住民参加はどこまで可能かということも、「アドプト制度」という新しい試みなどを交え、地元の愛着心を行政がどこまで支援できるかというテーマもありました。

さらに、街づくりを進める上での心構えとして住民対応には、腹を据えて考えがブレナイことが信頼の源であると結びました。

その後の質疑では職員の皆さんから、

官と民の違いの中で、都OBが民間に行って変わったことや民間の効率的な事務運営などについて。

施設管理の中で、地元住民がもっと参加すれば官民の信頼関係が構築され、うまくいくと思うが、都OBの皆さんは地元ボランティア活動に参加できるような労働条件なのかどうかについて。

住民対応の中で、うまくいった事例などについて。等々活発な質問がありました。

特に、住民対応の事例として、河川事業の中で、当初の考えが少しブレたために解決に長期間要した事例と、トラブルが起こったとき、すぐに謝罪し素早い対応で解決した事例を都OBから詳しく答える

など充実した質疑となりました。

今回の意見交換会には、現在南東建を担う中堅やベテラン約40名の方々が参加しました。その中には新規採用の女性職員(技術)も参加して大いに盛り上がりました。

今年の東京都新規採用の技術職員は、建設局の努力が実り建設局としては少し増えたと聞き嬉しく思います。

さらに、建設局も現在の「土木技術センター」を平成21年度から「土木技術支援・人材育成センター」と改め人材育成に力を入れることを聞き心強く思います。

しかしながら、技術職員の世代間人員のギャップは依然として大きく、安易なアウトソーシングが重なると技術力の低下が加速される恐れがある。

こういったことを防ぎ、人材育成の面で少しでも私ども都OBを活用して頂きたいと切に願うものである。

最後に、私どもの活躍の場としてこの意見交換会の開催を企画していただいた、四方所長始め南東建の管理職、この会に参加いただいた皆様に感謝申し上げます。 南東建班 原田 龍次

井の頭池水質浄化セミナーへ参加

井の頭恩賜公園 100 年実行委員会(事務局は西部公園緑地事務所)が主催する「水質浄化セミナー、よみがえれ！！井の頭池！」が2月28日(土)午後、同園の自然文化園で開かれました。



[参加ボランティア会員]

「井の頭恩賜公園開園100年となる2017年に向けて、池の底が見えるほど澄んだ池の復活を目指して」のセミナーでした。

西部公園緑地事務所からの要請により、当日は

西部公園班湯本サブリーダー、二宮理事をはじめ会員 11 人が参加し、講師の先生方の講演に熱心に耳を傾けていました。

また、会場においては井の頭池の歴史や水辺環境、水質浄化に向けた取り組み等を分かり易く解説したパネル展示があり、参加者の目を引いていました。 広報担当理事 中田 勝司

編集後記

21 年度の第 1 号ニュースは、初動対応訓練、施設見学会、防災講習会、井の頭池浄化セミナー、事務所との意見交換会(南東建)等々盛り沢山の内容で、久し振りに6頁構成となりました。

協会からのお知らせ

1. 新規入会員

稗田 建 (H21.04、西 建)
松田 信毅(H21.04、南西建)
敬称略(入会年月、参集事務所)

2. 退会会員

20年度末で次の会員の方が退会されました。

荒木 清	池野 鎮雄
海藤 良三	笠井 章夫
来原 昌	笹村 正行、
佐藤 俊	堂下 博
野村 隆雄	早川 一
林 泰三	藤田 亮有
別所 正彦	宮崎 藤夫
山口 岩男	(敬称略)

長い間協会のボランティア活動にご尽力頂きありがとうございます。改めて誌上で感謝申し上げます。

3. 平成 21 年度の総会を 6 月 17 日(水)に東京都道路整備保全公社26階大会議室で 15:00 から開催する予定です。総会終了後に懇親会(場所未定)を行います。多数の会員の方の参加をお願いいたします

発行人：沼尻 執

発行：東京都建設防災ボランティア協会

所在地：東京都新宿区西新宿 2 - 3 - 1

財団法人 東京都道路整備保全公社内

編集：加藤 基雄、中田 勝司、丸岡 敏夫